

10 宮城県における主な漁船漁業

遠洋漁業

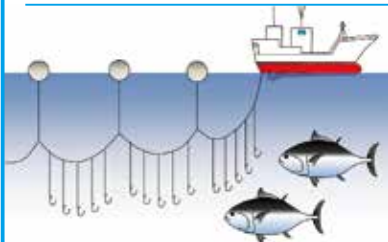
大型船(100トン以上)を使用し多くの人を雇い、何ヶ月も日本を離れて漁をします。遠洋まぐろはえ縄、遠洋底びき網などの漁業があります。

沖合漁業

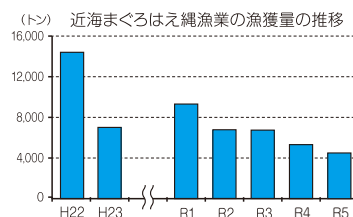
沿岸漁業で使用する船よりも大きな船(10トン以上)で、沖に出て何日もかけて魚を獲ります。さんま棒受け網、まき網、沖合底びき網、いか釣りなどの漁業があります。

はえ縄漁業

表層に設置した幹縄に針と餌が付いた枝縄を等間隔で吊り下げ、マグロやメカジキ、サメなどを釣り上げる漁法です。

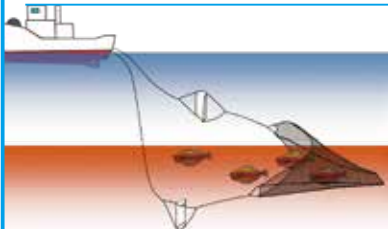


《おもな魚種》
マグロ



底びき網漁業

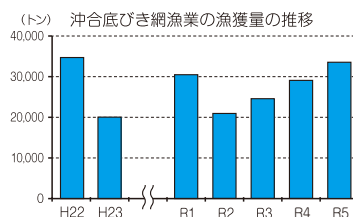
袋状の網を海底に投網し、網口を開きながら網をひき、海の底にいる魚介類を獲る漁法です。



《おもな魚種》
ヒラメ

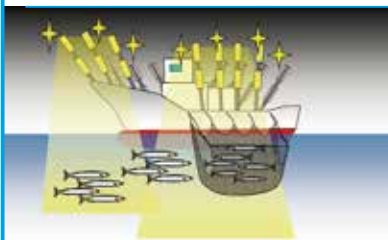


カレイ

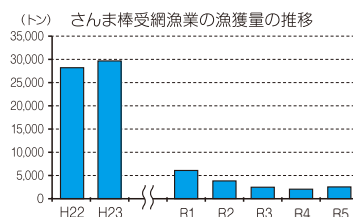


棒受け網漁業

集魚灯を用いて、海面付近に魚を集め、あらかじめ船から海中に用意した網で、集まった魚をすくい上げる漁法です。

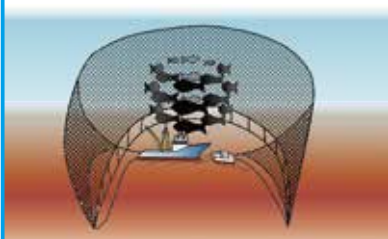


《おもな魚種》
サンマ

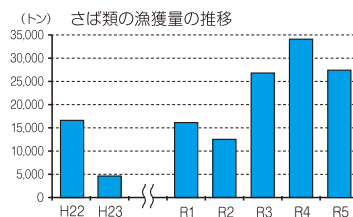


まき網漁業

魚探船、網船、運搬船でひとつの船団を構成し、網船が魚群の回りを大きな網で囲い込むことで魚を獲る漁法です。



《おもな魚種》
マサバ

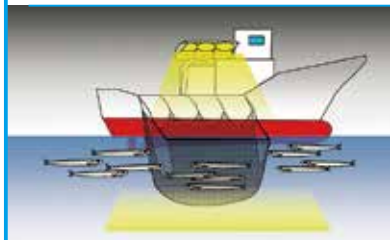


沿岸漁業

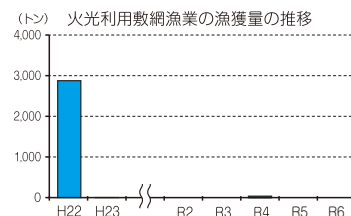
小さい船(10トン未満)を使用して、岸に近い海で魚や貝などを獲る漁業です。刺網、小型底びき網、定置網、一本釣り、すくい網、船びき網などの漁業があります。

火光利用敷網漁業

集魚灯を用いて、海面付近にイカナゴ(コウナゴ)を集め、船から張り出した網ですくい上げる漁法です。

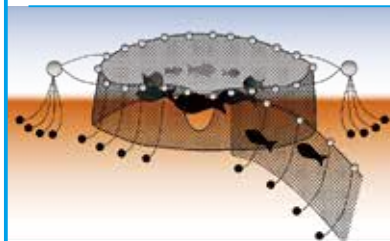


《おもな魚種》
イカナゴ(コウナゴ*)
(※イカナゴの稚魚期の呼び名)



定置網漁業

魚の通り道をふさぐように垣根状の網(垣網)を設置し、魚が逃げられない構造となった身網とよばれるところまで、魚を誘導し、漁獲する漁法です。多種多様な魚を獲ることができます。

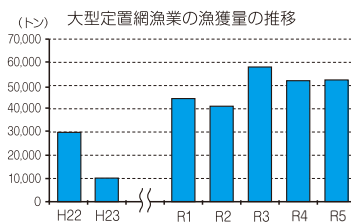


《おもな魚種》

イワシ

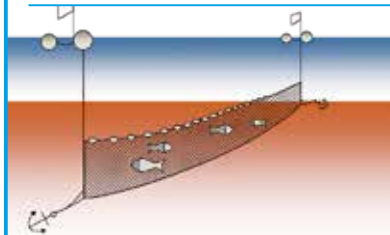


シロサケ



刺網漁業

魚の通り道に網を張り、魚を網目に絡ませて多種多様な魚を獲ることができる漁法です。

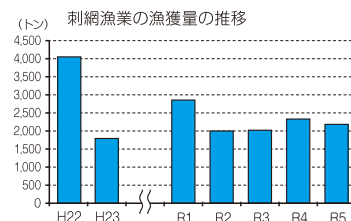


《おもな魚種》

ヒラメ

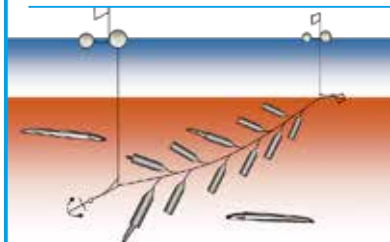


カレイ



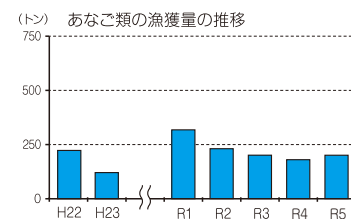
ハモ胴漁業

片側に返しが付いた開口部がある筒状の漁具(胴)に餌を入れて海底に沈め、胴に入り込んだマアナゴ(ハモ)を引き上げて獲る漁法です。



《おもな魚種》

マアナゴ(地方名ハモ)



※出典について

漁獲量の推移(火光利用敷網漁業以外)は漁業・養殖業生産統計年報(農林水産省)より引用(R5は速報値)。火光利用敷網漁業については宮城県総合水産行政システム(宮城県)より引用及び漁協聞き取りによる。魚の写真は旧志津川町発行「南三陸の沿岸魚」より引用。

※集計期間 全て1~12月